

過去の延長に未来はない

現在できないことが、夢です。夢を失わないため、チームに信頼感が必要です。

夢が人の前に進める原点であります。人は夢によって活動し、変化を明るく前向きに受け止めた結果、目標を持てます。

変化の先を読み、将来像を描く。

これまでになかった発想や

視点で生まれるものは、過去の延長線上から生まれるものではない。

分析し問題を見つけ、若干でも対策に置き換える。この手法は時代遅れです。デカルト的西洋発想を基礎にした「過去の延長線上に未来はない」のです。時間と目的を考え、いかに達成するかを考え、変革が結果の量と質に大きな影響を与えます。

現代は変革主導の時代です。わが国は数十年にわたり先送り構造改革を進めていますが果たして成功したと言えるでしょうか。私達は今まで何十何百回投票に行きました、不安から解放されたでしょうか。残念ですがこれからまた何百回投票しても、状況がよくなるとは考えられない。

隣国の圧倒的な構想力の格差、したたかな経済構想に翻弄されるPPP提灯を一人掲げた、世襲ピエロが見えてくる。

るのです。

未来から学ぶ、先はこうあるべき、未来のあるべき姿を描けないは、未来の過去が現在でありますから結果未来がないのです。

すなわち「変化」なくして成長なし、継続的に次の手を練り出し続ける中でしか「存続」自体がないのです。ですから、変化するのみ明日又、日が昇り輝きます。

昨年や年初と比べ何がどう変わったか、単に年を重ねるのでなく、新たな事をど

でないですが、たとえ無駄であっても行動せず、自然の回復力にゆだねるのは、自分の自信と経験につながる。ただ逃げる日々を重ねるだけです。

明日の破綻

大きな妄想を描き、そのための可能な小さな目標も作らない。会社に計画（年次・月次）が無いのはそれが失敗では、会社として存在の意味が問われます。

れだけ行ったかでしょう。総括できるほどあれば、貴重な経験で立派です。踏み留まるだけの後退、少なくとも消滅の危機から僅かに遠いのですが、何もしないのは最悪の手です。全く5年先、10年先を見ざる、言わざる、聞かざるの、最悪の考えざるです。

我が国は明治の成功体験が、すべて今日のトラウマになっている。経済成長はしたが、民族の愚策で、更なる衰退と消滅の過程（人口減少）でしょう。

小さな目標の積み重ねから、多くの達成感を得ることが可能です。

我が国の金儲け第一が仕事では、謙虚さを失わない心が希望です。

人間が自然界に驚異と凶器の存在になっっているのに未だ気付かず、多くの人がアメリカ的正義が不正だと未だ気付かず、政権の基軸が、錯覚の創出と虚像であることすら知らない。

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2016年10月25日 (火) NO 406

地域から明るい未来を作ろう